

2007.3



- 青年部視察研修参加報告(平成 19年 1月 26日~28日)
 - ・ 韓国ソウル市保育情報センター(SCCIC)
 - ・ ソウル市立「子どもの家」
- 幼稚園視察報告(平成 19年 2月 27日)
 - ・ 結城市結城 7984-4 つくば幼稚園
- 日本保育協会青年部活動報告

韓国視察研修に参加して

玉里第二保育園

事務員 戸田 大我



SCCIC と子どもの家がある建物

現在の日本は合計特殊出生率が 1.25 前後の超少子化国となっており、様々な「少子化対策」が効果を発揮していないという状況にあります。隣国の韓国も同じく 1.1 と日本以上に深刻な状況にあり、韓国の「少子化対策」はどうなっているのかを視察する目的で、平成 19 年 1 月 26 日から 28 日

までの 3 日間、16 名の参加者で韓国ソウル市へ視察研修に行っていました。

1 日目、仁川空港に降り立ったわれわれは、その足でソウル市の中心地にある「ソウル市保育情報センター」(略称 SCCIC)と「ソウル市立子どもの家」が入っている建物に向かいました。

ここは、2000 年 3 月に開設された鉄筋コンクリート造りの 4 階建の施設で、情報センターには保育情報室、相談室、保育情報室、図書館、研修室が、子どもの家(=保育施設)には保育室、食堂が設置されております。保育情報室には徹底した情報管理システムが導入され、市内の保育施設のうち約 800 施設の情報を収集し保育施設利用者はそれらをパソコンで検索できるようになっており、他にも保育関連資料の閲覧や教材等の展示なども行われています。研修室では月 2~3 回、保育施設関係者の要望に沿った講座が開かれ、われわれが視察した時にもちょうど保育士向けの講座が開かれていました。

研修室では月 2~3 回、保育施設関係者の要望に沿った講座が開かれ、われわれが視察した時にもちょうど保育士向けの講座が開かれていました。



SCCIC の説明を聞くメンバー

ここの子どもの家では実際に約 170 人の児童の保育が行われています。韓国では日本の最低基準のような面積とそれに対する児童数や、職員数などが法律によって決められておらず、それぞれ施設独自の基準で運営がなされているのが現状です。ソウル市内だけでも約 5,000 箇所の保育施設がありますが、日本のような行政による認可という制度は 2005 年に始まったばかりで、それまでの実績に応じてランク付けされ、補助率などが決まってくる「認証制度」によって運営されています。認証制度の導入以前は長い間日本と同じように幼稚園と保育施設や民家の小さな空間で行われる保育が一般的な形態でした。「ソウル子どもの家」は、独自の配置基準によって、0 歳児は 3:1、1 歳児は 5:1、2 歳児は 7:1、3 歳児は 13:1、4 歳児は 15:1、5 歳児は 16:1 で保育士を配置しています。また、利用料は 0 歳児 350,000 ウォン（日本円で 1 万円=80,000 ウォン、換算すると約 44,000 円）から 4 歳以上児 79,000 ウォンまでと日本と同じようなものになっています。

その他、地下には給食を大勢でとれる食堂や、雨天でも使用できる広い運動スペースがあり、この建物だけで“子育ての情報収集、保育士の研修、給食の献立の提案、子どもの保育”と子育ての様々な機能を備えていました。子どもの家の室内外には様々な独自の工夫がここかしこに見られ、研修参加者にも興味を引くものが多く、職員の方に質問している姿が見られました。また、床がオンドル式（韓国伝統の床暖房）だったり、食堂には大きなキムチ保存庫があったりと韓国固有の文化を大切にしていることに改めて感心させられました。

この子どもの家を視察して韓国は日本に比較して保育施設への補助制度が遅れている面があり、運営的には厳しいものがあると感じました。（ソウル市立子どもの家は韓国においてもっとも恵まれた運営状況ある）韓国政府の「少子化対策」も始まったばかりで、現状では出生率を上げるのは難しいという印象を受けました。日本における少子化対策が芳しい成果を上げていないことを考慮してみても、社会全体で子育て家庭を支援するという合意を作り、これまで以上に思い切った政策を実施していくことしか解決方法はないのではないかと思います。そしてその政策は真に子どものためになるものでなければならないことは言うまでもあ



文化村の正門前で記念撮影

りません。

2日目は韓国文化研修ということで、ソウル市郊外の文化村、ソウル市一帯を見渡せる南山タワー、韓国に行ったらとにかくここへという南大門市場など、韓国の歴史・文化を堪能することができました。バス移動中にも参加者それぞれの保育園で抱えている問題、目標としている保育園像などが話題となり、将来の保育園をどのように描いていくかに日々苦慮されているんだな、と感じました。夜は懇親会が設定され、韓国料理をいただきながらビールやマッコリを飲み十分に親睦を深めることができました。

最後に大谷部長が、「今回の研修を企画・実施して下さった研修委員の皆さん、筑子保育園の中山先生に厚く御礼申し上げますとともに、この研修で得られたものを自園に持ち帰って、明日からの保育に活かしていきましょう。」との言葉でこの研修が締めくくられました。

つくば幼稚園を見学して

青年部広報委員会



保育園の2階から幼稚園を望む

ました。

今年度の広報委員会では一般的に保育園が幼稚園より劣っていると言われてい「教育的側面」に着目し、幼稚園ではどのような教育が行われているのか見学し「礎」誌上に掲載することをテーマとして活動してきました。今回は2月27日(火)に結城市にあるつくば幼稚園(理事長滝田昌孝先生)におじゃまさせていただきました。

学校法人愛育会運営によるつくば幼稚園はつくば保育園(社会福祉法人筑波会)と共に国道50号線バイパスを小山方面に向かった結城市結城の一角に、園庭を囲んで左右に建ち、保育園の裏手には軽費老人ホームが建てられています。

午前 10 時に伺った時はちょうど園庭で体育ローテーションを行っていましたが、揃いのジャージを着た園児達が跳び箱やマット運動などを元気にクリアしていました。

案内された学童室で滝田先生から沿革、事業内容、運営方針などひとつおりの説明を受けてから保育園、幼稚園の順で施設を見学させていただきました。特に保育園舎は3年前

に立て替えたばかりとのことで鉄筋コンクリート2階建てのとてもすてきな建物でした。つくば幼稚園の基本方針は「保護者・職員・園の相互の信頼と愛情をもとに、言語、体育、音楽の活動を主軸とし知育・徳育・体育の三位一体の総合教育によって子どもの基礎能力を高め、知性と人間性に満ち、かつ想像力豊

かで問題解決意欲と能力の高い子どもの育成を目指す」というものです。この方針は隣接して運営されている保育園も全く同じで日々の保育も合同で行うことが多いとのことでした。具体的には体育ローテーション、フラッシュカードを使うての文字・数・知恵の能力開発を行ったり、漢字のことわざを暗唱したり、簡単な計



文字教育のいろいろな掲示物が…

算を解かせたりという教育を行っているとのことでした。また、無理やり覚え込ませることにならないよう注意し、決して子どもに押しつけるのではなく日々の生活のなかで子どもたちが喜んで取り組んでくれるような環境をつくり、やる気を起こす機会を与えることを大事にしているとのことでした。最後に保育園のホールで3, 4, 5歳児による歓迎の合唱を聴かせていただきましたが、日々の練習の様子が窺え良く揃っていて100名以上の合唱は迫力があり素晴らしいものでした。

滝田先生は、いろいろな幼児教育を行



滝田先生の施設説明のようす



保育園を背景に滝田先生を囲んで

うことで子どもたちの能力がアップし、その具体的な成果を見ることで保護者がより子どもに関心を向けるようになり、より良い親子関係が築かれていくと話されていました。現在、160名の定員を4月からは210名に増やすとのことで、このような運営方針が地域の保護者に広く支持されていることを感じながらお暇しました。 参加委員：小橋、大高、川又、増子、金澤、塙

日本保育協会青年部活動をとおして

上小瀬保育園
副園長 金澤 信仁

私は、現在日本保育協会青年部（以下日保青年部）に入会し活動をしています。入会し1年が経過しようとしていますので、この1年を振り返っての感想を報告させていただきます。

日保青年部には、経営委員会、情報委員会、保育委員会、制度委員会、があり茨城からは、私を含め7名の委員が日本保育協会の活動に参加しています。それぞれの委員会では、年度初めに当期の活動方針を決め開始しますが、私の所属する経営委員会では、文字通り園経営に関する事柄が中心になります。今期は保育園における人材育成について、特に新卒保育士のインターンシップ制度導入についての研究活動を行っています。

インターンシップ制度とは、学生が在学中に企業などで一定期間の実習を通じて就業体験することをいいます。研修内容および期間は、受入企業により異なりますが、基本的には社会人としてのマナーを含むルール、受け入れ先の事業内容とその一部の業務、企業に取り組む姿勢などを実務体験を通じて学ぶものです。保育業界にはあまり取り入れられていませんが、その制度を保育界に導入できないだろうか、毎回委員会で論議しています。実現できれば、保育所運営者にとって、サービス（保育の質）の向上や、リスクの軽減につながり、大変実りあるものになるのではないかと感じています。現在は、全国の園長先生方に、新卒保育士の質や、現状に関しての思いをアンケートで回答していただくための準備をしています。また、各委員の地元での開催も行われており、地元の先生方に御協力を頂き、施設見学なども行っています。

私が、働く保育園は東北の小都市にあり、これまで他の園の先生方と交流させて頂く機会はありませんでした。2年前に茨城県民間保育協議会青年部に入会して、まもなく日保青年部に出てみないかと誘われ、いつの間にか活動を始めました。私にとって、全国的な場での活動は初めてであり、最初は他県の先生方と接して話をさせて頂くだけでも、緊張の連続でした。活動を続けるうちに、さまざまな保育ニーズに答えるためにも、私たち若手保育者が何かしらの答えを見出さなければという使命感を感じるようになりました。その為には、やはり力を結集することが大切ではないかと思えます。若い先生方に、もっと日保協青年部に出てきていただき、保育界を元気にしていきたいものです。

最後に、私は日保協青年部に参加できたことを、大変有意義に感じています。今後も微力ながら委員会活動に頑張っていきたいと思っています。



編集後記

みなさん、朝晩はまだまだ寒い日がつづいていますね。早いもので、今年度ももうおしまいです。振り返ってみると、今年度の青年部は、隣国韓国へ視察研修にでかけ、国外の保育事情を勉強するなど実り多い一年でした。これからの保育の担い手としての自分を広げられ大変勉強になりました。また将来の自園をどのように構築していくか参考になるものをたくさん見聞することができました。（藤枝）

月日の過ぎるのは早いもので今年度も本当に差し迫ってからの「16号」の発行となってしまいました。思い起こせば6年前に広報委員会に入り、今期は委員長を務めさせていただきましたが、有能なスタッフに支えられここまでたどり着いたという気がします。今年度は個人的にも多忙を極め、委員会活動が疎かになったことが心残りです。新年度からは新しい委員長の下、新たな展開があるのではないかと楽しみにしています。広報委員の皆様これまで大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。（小橋）



オ一モリ弁当®

〒310-8586 水戸市千波町 1918

茨城県民間保育協議会青年部広報委員会

平成 19年 3月発行